モノ・グラフ

怒れる虎のペルソナ
ポン教の聖者、タクラ・メバル

津曲 真一（つまがり しんいち）
四天王寺大学講師
専門分野は、宗教学・チベット学。宗教文献の解読作業とフィールド調査を通じ、宗教体験の〈本質〉に接近する可能性を探っている。

虎は、世界中の神話・民話に最も頻繁に登場する動物の一つである。とくに日常生活のなかで虎と接触することが少なくなかった地域では、虎に関するエピソードはじつにバラエティに富んでいる。

中国では、生命力に溢れる虎は「陽」の動物であり、畏敬の念からその名を直接に呼ぶことを避け、「山獣之君」等の名で言い換えられるほどであるが、チベット文化域の民話では、人間との知恵比べに敗北する間抜けな虎がよく登場する。

また中世ヨーロッパの動物寓話集にも虎に関する面白い伝説がある。それによると、虎には水面に映った自分の姿を自分の子どもと思い込んでしまう習性があるらしい。猟師たちはこの習性を利用して、丸い鏡を地面に投げて獲物を待ち伏せし、離れがたい思いで鏡を覗き続ける虎を、不意打ちにしたという。

私たち日本人は、虎を強さのシンボルとして表象する傾向が強いが、世界の多くの地域では、虎は許すということを知らない専制君主であるだけでなく、コミカルで、優しい心をもつ動物としても表象されてきたのである。

燃えさかる虎神

現在みんぱくで開催中の企画展「チベット ポン教の神がみ」（二〇〇九年四月二三日～七月二一日）に、その鋳像（ちゅうぞう）と絵画が展示されているタクラ・メバルという聖者は、虎のこうした二面性をよく表している。「タク」は虎、「ラ」は神、「メバル」は燃えさかる火。日本語に訳せば「燃えさかる虎神」となる。

タクラ・メバルは、見る者を圧倒するような怖ろしい姿で表現される（写真1）。誤った思考を焼尽（しょうじん）するとされる炎輪、凶暴さと吉兆の徴である虎皮の衣、人間の生首を飾りにしたベルト。右手には教えの象徴である法輪、左手には敵を駆逐する交叉した利剣を持ち、両足でゲシェンという男女の魔を踏みつぶす。右足を曲げ、左足を伸ばした舞の姿は、あらゆる悪に勝利した彼の勇敢さを象徴している。

絵画に描かれるタクラ・メバルには、また違った趣がある。写真2の絵画では、タクラ・メバルの上方に、彼に秘法を伝授したとされる歴代の導師たちが描かれており、四方にはタクラ・メバルの化身が配置されている。チベットの宗教家たちは神がみの鋳像を瞑想実践の対象とすることがあるが、絵画は聖者の事績や神がみの関係性を説明するために描かれる場合が多い。同じ人物が異なる手法によって表現されるのには、それなりの意味があるのである。

タクラ・メバルの鋳像（写真1）

兄殺しの神話

タクラ・メバルがこのように怖ろしい姿をとるようになった理由については、次のような伝説がある。

その昔、ポン教の聖地タジクにヤンギェル・ヘーギェルポという王がいた。王はときに気まぐれから、家臣に暴力を振るうことがあった。ある日、家臣の一人が「来世には、王の息子として生まれ変わります」という遺言を残してこの世を去った。やがて王妃は双子の男児を出産する。一人はダルシャ・ディワ、もう一人はタクラ・メバル。

タクラは穏和で信仰深かったが、ダルシャは生まれつき気性が激しかった。やがてダルシャは王を殺害して宮殿を飛び出し、タジクの南方で人間の肉を喰らうようになった。タクラは人びとの命を救うために、秘法を用いて神がみに助けを求めたが、神がみはいっこうに姿を現さない。するとタクラを不憫（ふびん）に思った女神チャンマが姿を顕し、彼に次のような助言を与えた。

「汝がダルシャに慈悲の心を抱かない限り、神がみが汝の願いに耳を傾けることはないだろう。だが、本当に人びとを救いたいなら、汝は慈悲の心だけでなく、人びとを畏怖させるような威儀（いぎ）を身につけなければならない。」

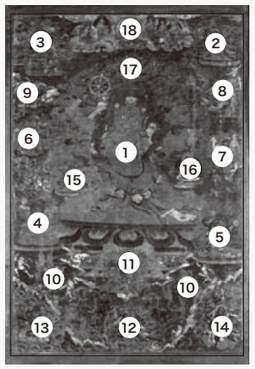
女神の言葉をうけ、タクラは忿怒（ふんぬ）の姿でダルシャのもとに到り、深い慈悲の心をもってダルシャを殺害した。

この物語は慈悲による救済の論理を説くと同時に、人間の内部には、圧倒的な力によってしか克服することができない邪悪な闇が存在することを教えているのかもしれない。

ポン教徒にとってタクラ・メバルは崇拝の対象であると同時に、自己の内面を映す「鏡」でもある。ポン教僧によれば、この虎神は、瞑想中のヴィジョンや、夢の中にも登場するとされる。

今回の企画展に展示されているタクラ・メバルの鋳像と絵画は、いずれも私たちの心を惹きつける神秘的な魅力に溢れている。この機会にぜひ一度、自分の心を映す「鏡」として、この虎神の姿をじっくり見つめてみてはいかがだろうか。

タクラ・メバルを描いた絵画（写真2）



タクラ・メバルと四つの化身
1. 利剣を持つ赤い虎神（タクラ・メバル）
2. 利剣を持つ黒い虎神
3 黄金の鎧を身につけた白い虎神
4. 紅血色の顔をもつ火焔のポン
5. 紅血色の顔をもつ仕事人

下級の神々と悪魔
6. 香を食する者（乾闥婆）
7. 夜叉
8. 龍王
9. 閻魔
10. 18人の驕れる者たち

教法を守る神々
11. 虎の顔をした紅い者
12. 使者、紅黒い空の魔
13. 崖のツェンという魔
14. 現象世界の女王

その他の神々と師僧（ラマ）たち
15. 秘密の鷹の父母
16. 明浄なる女神
17. 言葉の白獅子
18. 勝者集会